

国立大学法人岡山大学長の業務執行状況の確認について

国立大学法人岡山大学学長選考・監察会議は、国立大学法人岡山大学学長選考・会議規則第3条の2の規定に基づき、令和7年度における那須保友学長の業務執行状況を確認したので、その結果を公表する。

1 確認の経過

- (1) 第12回学長選考・監察会議（令和8年3月11日開催）において、令和7年度学長の業務執行状況の確認の日程について決定した。
- (2) 第14回学長選考・監察会議（令和8年6月23日開催）において、次の資料及び学長へのヒアリング、監事からの意見聴取に基づき確認を行った。
 - ・令和7年度学長業務執行状況報告書
 - ・令和7年度学長業務執行状況報告プレゼンテーション資料

2 学長選考・監察会議構成員（各五十音順）

経営協議会学外委員

塚 本 泰 司
中 島 義 雄
細 羽 紀 子
松 田 正 己
水 田 美 由 紀

教育研究評議会評議員

成 瀬 恵 治
西 田 陽 介
廣 畑 聡
三 村 由 香 里
森 也 寸 志

3 令和7年度学長業務執行状況の確認結果

以下のことから、学長選考・監察会議は、学長の業務執行状況は適正であることを確認した。

【社会との共創】

- ・外部資金の獲得額は53,342千円であり、年度目標の37,600千円を達成している。
- ・国際的にインパクトのある成果として、①グローバルRCE（Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development：ESDの育成拠点として国連大学が認定している地域）会議（国連大学主催）、②国連のイニシアチブ事業「高等教育機関サステナビリティイニシアチブ（Higher Education Sustainability Initiative：HESI）」のグローバルフォーラム（国連大学主催）、③国際シンポジウム「未来への贈り物 80億人の安全、健康、ウェルビーイング」（関西万博、ILOからの協力依頼）において、本学の取り組みを3件発信することで、年度目標の1件を達成している。

【教育】

- ・外部評価委員会の「教育に関する目標を達成するための措置」に関する外部評価報告書において、「新執行部（令和5年度から）のもと、教学マネジメント体制改変を急

ピッチで進め、組織体としてほぼ完成させたことを高く評価したい。」「新カリキュラム（Target2025）を堅実に運営していることと、令和6年度実施状況に対する外部評価委員会意見への回答となる様々な施策を実行していることを高く評価したい。」と評価されている。

- ・「特別支援教育指導者養成プログラム」を新規開設するなど、リカレント教育の充実に努めたことにより、延べ履修者数は125人増となり、年度目標の70人増を達成している。
- ・継続してSDGs国際教育プログラムを推進したことにより、履修している留学生数は23人となり、年度目標の20人を達成している。

【研究】

- ・5年間の累計で比較するTOP10%論文数増加率（平成29～令和3年度累計と令和3～7年度累計の比較）は年度目標の104%を達成していないが、APC（Article Processing Charge）支援制度の継続や科研費タスクフォースの活動を中心とした科研費獲得支援を強化により、令和6、7年は増加傾向（それぞれ前年度比、12%増、10%増）であり、令和8年度以降に状況の改善が見込まれ、中期計画に定められた評価指標を達成できる見込みである。
- ・5年間の累計で比較する国際共著数増加率（平成29～令和3年度累計と令和3～7年度累計の比較）は112%（715件）であり、年度目標の109%を達成している。
- ・民間企業等との共同研究による外部資金獲得額は、令和3年度比139.0%（737,570千円）であり、年度目標の120%を達成している。
- ・JST次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）の下、OU-SPRINGを継続実施するなど博士後期学生への経済的支援を強化した結果、生活費相当額受給率が72%となり、年度目標の70%を達成している。
- ・若手研究者の論文数増加率は令和3年度比133%（757件）であり、年度目標の130%を達成している。

【大学病院経営】

- ・新規企業治験、特定臨床研究として行う臨床研究の合計件数は84件であり、年度目標の64件を大きく上回っている。
- ・岡山医療連携推進協議会（CMA-Okayama）の参加施設として、新たに香川県立中央病院へ打診し、令和8年度からの参加が協議会で承認された。
- ・新たに「褥瘡セミナー」を開発・提供するなど、計8プログラムを展開し、年度目標の8件を達成している。

【業務運営】

- ・役員10名のうち女性を3名登用しており、年度目標の女性役員比率（30%）を引き続き達成している。
- ・キャンパス全体の「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」化、サステイナブル化整備として、保健学科棟、中学校1号館の2か所を整備し、年度目標の2か所を達成している。
- ・研究機器の学外利用料獲得額について、クライオプラズマFIB・SEM装置「Arctis」を整備し、国内初のクライオ電子顕微鏡「KriosG4」と「Arctis」の組み合わせによる学外共用を行うなどにより、獲得額増加率が2,567%（58,136千円）となり、年度目標の220%を大幅に達成している。

- ・学内の戦略的経費のうち先行投資対象の占めるシェアの伸び率（令和３年度比）は73.3%であり、年度目標の68%を達成している。
- ・外部資金収入伸率（令和３年度比）は22.7%で年度目標の26.7%を達成できていないが、受託研究・共同研究の受入や寄付講座の継続など着実に進んでおり、令和７年度の活動実績に基づく数値を勘案すると、中期計画に定められた評価指標を達成できる見込みである。

以 上